

スピノサウルスの体形の復元予想図 | 研究チーム提供

権利の都合により、表示不可

スピノサウルス 泳ぎが上手

背中に大きな帆のような突起物を持つことから「棘トカゲ」を意味するスピノサウルスが、尾を上手に使って水中を泳ぎ、獲物を捕まえていたらしいことがモロッコで見つかった化石からわかった。近年は4本脚で水辺を歩いて獲物を捕っていたのではないとも考えられてきたが、泳いでいた可能性が高くなったという。ただ、背中の突起物の役割はいまだに謎のままだという。

米国などのチームが英科学誌ネイチャーに論文を発表した。

スピノサウルスはアフリカ大陸にいた体長10m超の肉食恐竜。水辺で魚を捕っていたらしいことは分かっていたが、歩いていたのか、泳いでいたのかは議論があった。

チームは今回、約9500万年前の地層から見つけた、尾の骨の保存状態がよかった若い個体の化石から尾の形の復元に成功。まるでカヌーのパ

尾を復元「歩いた」説と論争決着？

ドルのような縦に平たい形状で、柔軟な構造を持っていたと推定できたという。

尾の模型をつくって水中で動かしたり、別の肉食恐竜やワニ、縦に平たい尾を持つイモリなどと比べてみたりした結果、スピノサウルスの尾は、ほかの肉食恐竜より推進力や推進効率がずっと高かったことがわかった。水中を自由に泳ぎ回れた可能性が高く、チームは「泳いで魚を捕らえる、水中に特化した捕食者だった」と結論づけた。

スピノサウルスに詳しい東京都市大の中島保寿准教授（古脊椎動物学）は「恐竜の生態進化の多様性を示す重要な発見だ」と指摘した。ただ、背中の突起物の役割はなお未解明だといい、「スピノサウルスが今も謎を秘めた魅力的な恐竜であることは変わらない」と話した。

（小坪遊）

- この記事・写真等は朝日新聞社の許諾を得て転載しています。（承諾番号 20-1867）
- 無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。